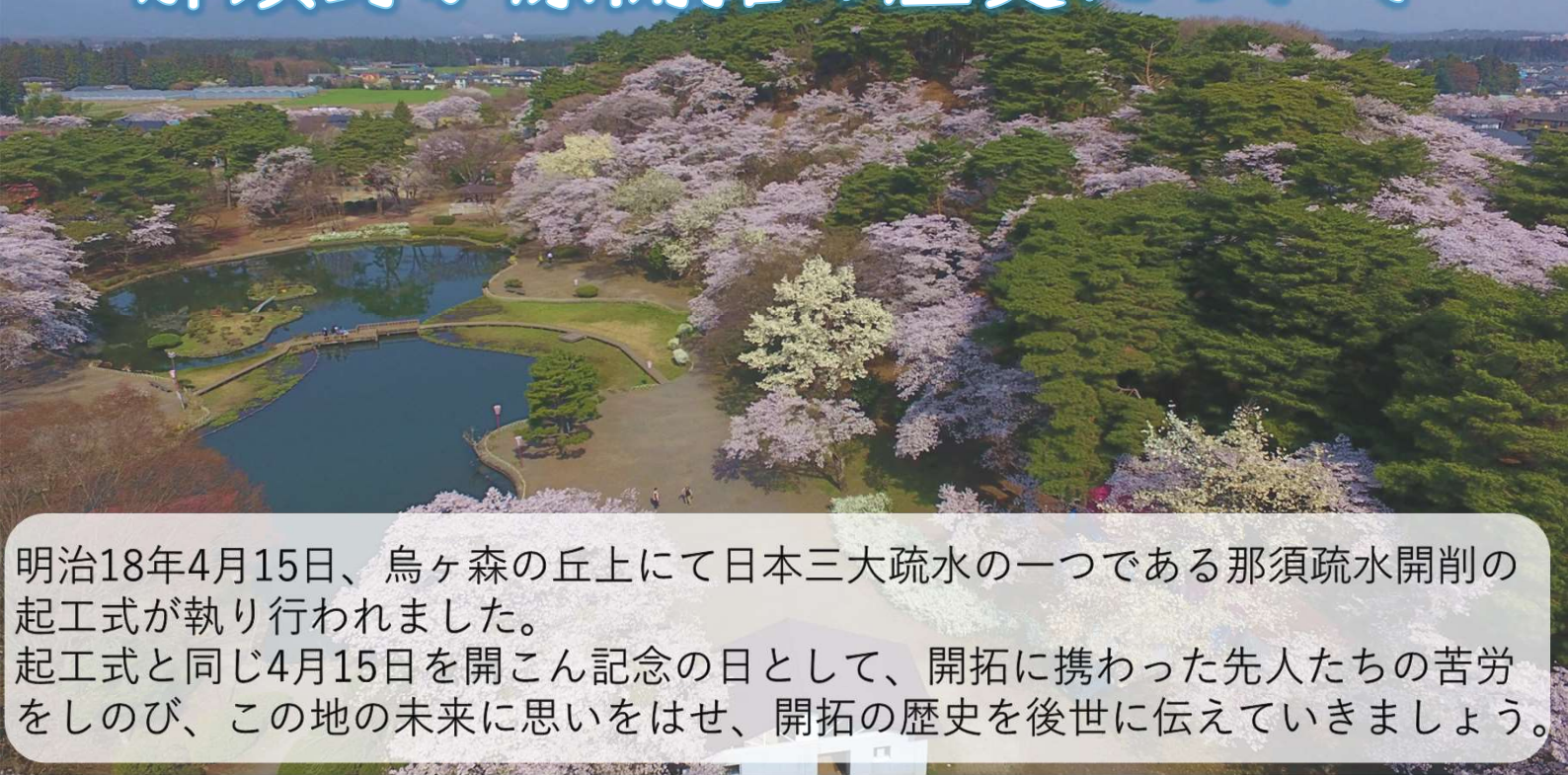


那須野が原開拓の歴史について



明治18年4月15日、烏ヶ森の丘上にて日本三大疏水の一つである那須疏水開削の起工式が執り行われました。
起工式と同じ4月15日を開こん記念の日として、開拓に携わった先人たちの苦勞をしのび、この地の未来に思いをはせ、開拓の歴史を後世に伝えていきましょう。

那須塩原市ホームページやYouTube那須塩原市動画チャンネルにて那須野が原開拓の歴史を学ぶことができます。

4月15日という大切な日に那須野が原の開拓の歴史に触れてみませんか？



絵本で分かる！



日本遺産ストーリーブック



那須野が原開拓の足跡



動画で分かる！

関連事業について

◆那須野が原博物館無料観覧：4月15日 午前9時～午後5時

▶問い合わせ 那須野が原博物館 ☎0287(36)0949

【問い合わせ先】那須塩原市 生涯学習課 文化振興係

(〒329-2792 栃木県那須塩原市あたご町2番3号)

【電 話】0287-37-5419

【F A X】0287-37-5479

【E - m a i l】shougaigakushu@city.nasushiobara.tochigi.jp

那須野が原の開墾について

明治13年(1880)、かやなどの生い茂る荒涼とした原野に初めて開こんの^{くわ}鍬が入れた。その後、明治政府の中枢にあった貴族階級である華族や地元の有力者などによって、大規模農場が次々と開設された。

当時、那須野が原には1万ヘクタールを超える那須西原・東原といった原野が広がっており、そこには一筋の川の流れもなかった。そのため、飲み水を得るのは容易ではなく、水を求める声は移住者の悲痛な叫びであったことだろう。開拓にかかわった人々の努力により、明治15年(1882)に^{なすはらいんようすいろ}那須原飲用水路が開通、明治18年(1885)には^{なすそすい}那須疏水の開削が決定し、4月15日に烏ヶ森丘上において疏水開削の起工式が執り行われた。

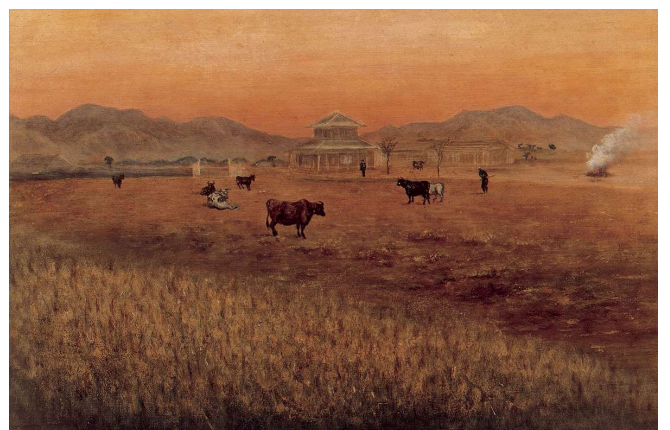
明治18年9月15日、西岩崎から千本松にいたる16.3キロメートルの本幹水路がたちまちにして完成し、三島の^{ちようこうしゃ}肇耕社において通水式が^{きたしらかわのみやしひさしんのう}挙行された。北白川宮能久親王の御臨席を^{やまがたありともないむきよう}仰ぎ、山縣有朋内務卿をはじめとする高官や工事関係者が多数参集、疏水の開削に功績のあった印南丈作と矢板武は、銀杯1組を贈られるなど、盛大な式典であったという。その後4本の分水路が開削され、那須疏水と呼ばれるようになった。

かくして、国の那須野が原開拓事業によって永遠に尽きることのない生命の水が昼となく夜となくこんこんと流れるようになり、大地をうるおした。その流れの先には^{かぞくのうじょう}必ず華族農場があったという。

平成30年(2018)には、明治期の華族農場を中心とする開拓の歴史が日本遺産に認定された。多くの先人が那須野が原に残した功績が私たちの宝物となったのである。

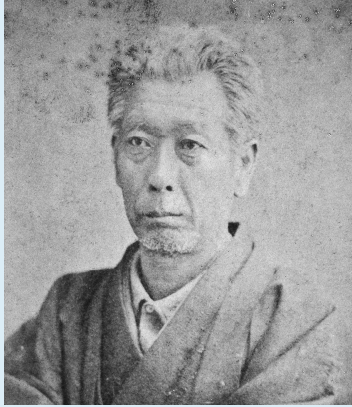


矢板農場の事務所



高橋由一《鑿道八景 下野那須郡三島村平野牧牛》

那須疏水をひらく



印南 丈作

印南丈作(いんなみじょうさく)は、日光生まれ。19歳の時に印南丈七の養子となります。明治13年(1880)には、矢板武らとともに那須開墾社を組織し、初代社長として開墾事業に着手します。明治15年(1882)には産馬共同会社の社長となり、運河構想が断念される中で、灌漑用大水路開削に奔走。明治18年(1885)9月15日に那須疏水が完成し、通水式が行われました。

明治19年(1886)に三区(那須塩原市三区町)に居を移し、那須開墾社の事業に打ち込みますが、明治21年(1888)に死去し、二つ室の常盤ヶ丘に葬られました。



矢板 武

矢板武(やいたたけし)は、矢板村生まれ。明治12年(1879)4月、初代栃木県会議員に選出され、同年11月には荒廃した日光の社寺の再興活動をしました。

明治13年(1880)、印南丈作とともに「那須開墾社」を設立し、開拓事業に着手。明治15年(1882)11月に完成した那須原飲用水路、明治18年(1885)9月に完成した那須疏水の開削に尽力しました。

明治24年(1891)に下野銀行の設立に関わり、明治31年(1898)、頭取に就任。その後も矢板銀行・下毛貯蓄銀行を設立するなど、県北地域の経済発展に力を注ぎました。

明治9年 (1876)

印南丈作・矢板武ら、那珂川から鬼怒川にいたる運河を開く計画の実現に動く。

明治13年 (1880)

那須野が原の開拓を進めるための大農場ができる。

明治15年 (1882)

大農場に入って開拓を進める人たちの、飲用水路ができはじめる。

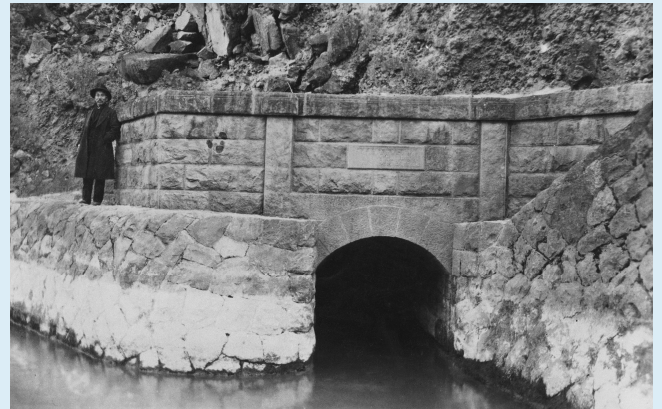
明治17年 (1884)

印南丈作・矢板武、大農場に水を引くための用水の計画を立てる。

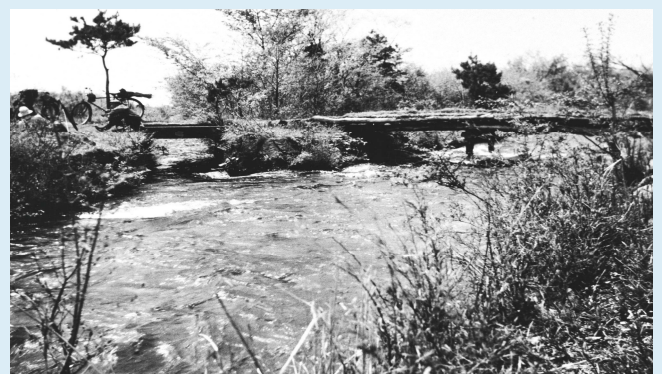
明治18年 (1885)

4月15日、水田を開くための大きな用水(那須疏水)の工事が始まる。

9月15日、那須疏水が完成する。

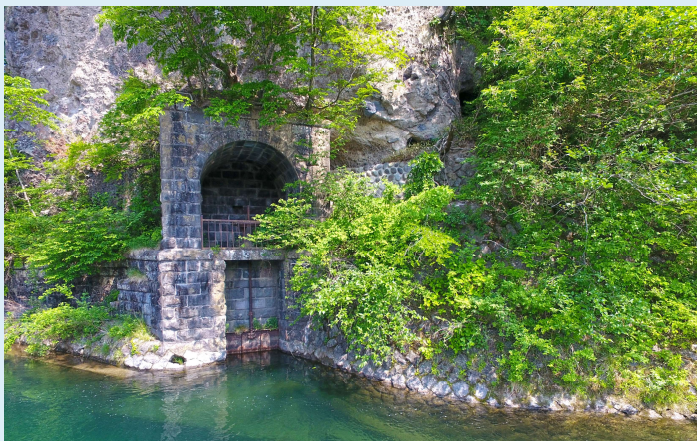
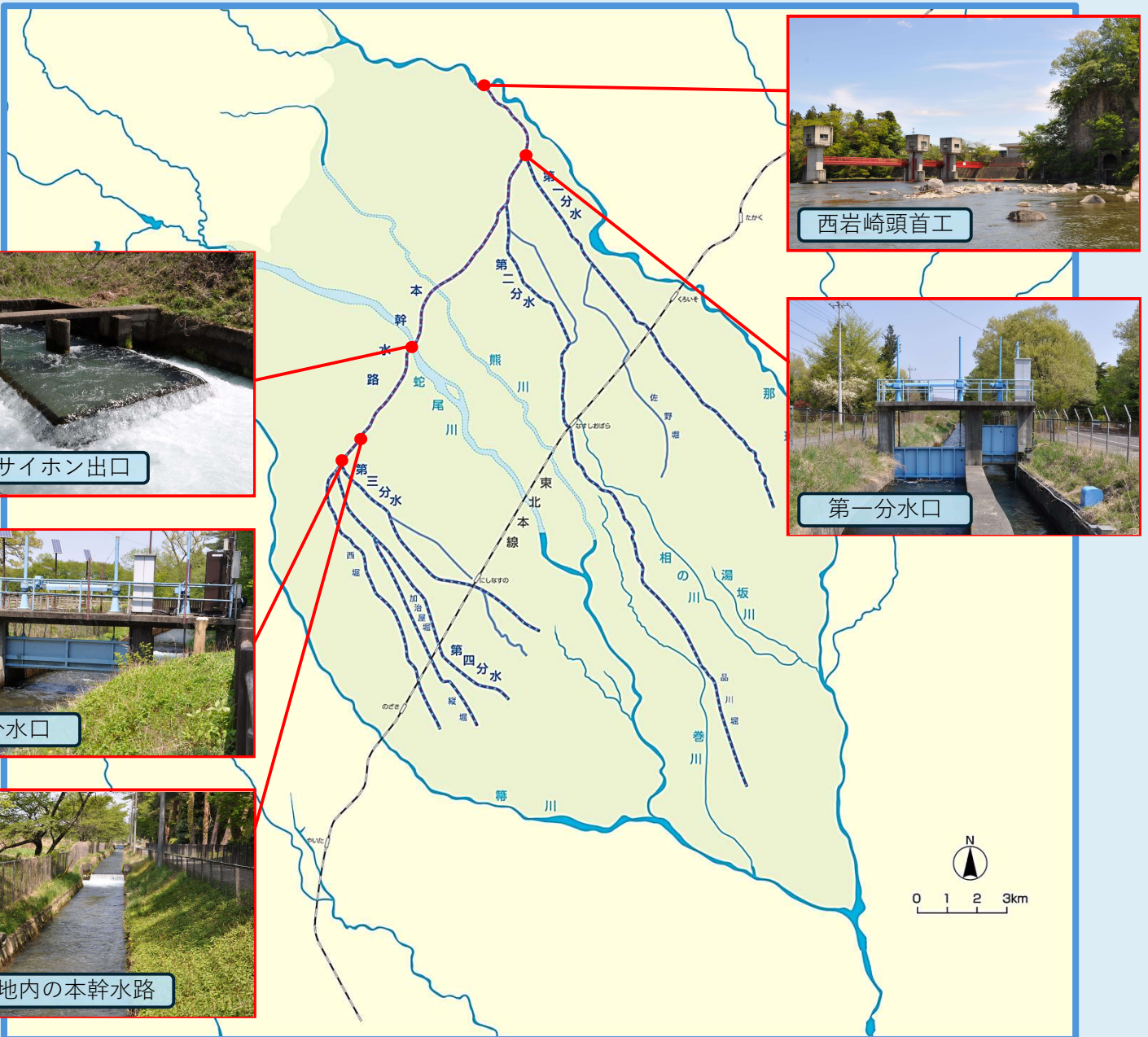


最初的那須疏水取入口



昔の本幹水路

那須疏水の路線



那須疏水旧取水施設



那須野が原博物館

※那須疏水の資料が展示されている